新型コロナウイルス感染症に配慮した
三重版災害ボランティア受援ガイドライン
ver1.51

＜別紙集＞

2022/10/5

作成　みえ災害ボランティア支援センター

特定非営利活動法人みえ防災市民会議
特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター
三重県ボランティア連絡協議会
公益社団法人日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会
日本赤十字社三重県支部
社会福祉法人三重県社会福祉協議会
三重県
（防災企画・地域支援課、地域福祉課、ダイバーシティ社会推進課）

別紙の目的

別紙はいずれもこのガイドラインの理解を深めるための作成例集です。

各団体で感染対策を反映したマニュアルを作成する際、実態に即した内容を各団体で作成するための『たたき台』として活用してください。

目次

ページNo

第２章第１項　「医学的アドバイス」

別紙１　作成例１　吹き出し解説付き　1

別紙２　作成例２　5

第２章第２項　「地元の声」

別紙３　作成例１　吹き出し解説付き　7

別紙４　作成例２　11

別紙５　作成例３　13

第２章第３項　「ボランティアミッション」

別紙６　作成例１　吹き出し解説付き　14

別紙７　作成例２　18

別紙８　作成例３　20

第３章　「ボランティア受援方針」

別紙９　作成例１　吹き出し解説付き　21

別紙10　作成例２　23

第４章　活動シーンごとの具体的対策

＜共通の対策＞

別紙11　ボランティア個人への呼びかけ例　25

別紙12　地元住民（被災者）への呼びかけ例　29

別紙13　団体むけ＜共通事項＞例　33

＜活動ごとの注意点＞

別紙14　団体むけ＜屋外作業（非接触）＞例　35

別紙15　団体むけ＜屋内作業（非接触）＞例　37

別紙16　団体むけ＜炊き出し/物資配布＞例　39

別紙17　団体むけ＜訪問/声かけ＞例　41

別紙18　団体むけ＜サロン/相談会＞例　44

別紙19　団体むけ＜子どもの居場所／学習支援＞例　48

別紙20　団体むけ＜避難所運営支援／被災生活支援＞例　53

別紙21　団体むけ＜ボランティア活動運営支援＞例　55

別紙22　緊急連絡先提供のお願い例　57

＜対象ごとの索引＞

別紙23　時系列に沿ってガイドラインが推奨する取組　59

（別紙 1）

作成例 1

災害ボランティア受援方針を定めるための「医学的アドバイス」

2022 年〇月×日現在

※このアドバイスは市町や市町災害ボランティアセンターが「受援方針」を作成するための参考にしてください

※有効期限は 1 週間（〇月△日）までとしますが、期限を待たずに更新される場合があります

作成：みえ災害ボランティア支援センター

〇医学的アドバイス

クラスターが発生しない対策を徹底した上で
災害ボランティアの受入を進めましょう

☆ワクチン・抗原定性検査キットについて

ボランティア：原則として住民と接する活動の参加者はワクチン 3 回接種済の方に限定しましょう
高齢者などを対象とする活動の場合はさらに抗原定性検査の併用も検討しましょう
非接種の方は住民と接点を持たない活動に限るなど工夫しましょう

住民：ワクチン接種有無に関わらず支援しましょう

「屋外(非接触)」での活動　：活動の前後（集合時や反省会等）や休憩中の対策を徹底して実施してください

「屋外(接触)」での活動　：ボランティア同士、ボランティアと被災者、被災者同士の感染が起きないよう対策を徹底した上で実施してください

「屋内（非接触）」での活動　：会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底して実施してください

「屋内（接触）」での活動　：ボランティア同士、ボランティアと被災者、被災者同士の感染が起きないよう対策を徹底した上で実施してください

「調整作業」での活動　：会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底して実施してください

〇新型コロナウイルスの感染拡大状況

被災地の感染拡大状況　：通常の医療提供体制が保たれている
直近 1 週間の新規陽性者数：〇人　クラスター発生状況：確認されていない

県内の感染拡大状況　：通常の医療提供体制が保たれている
直近 1 週間の新規陽性者数：△人　クラスター発生状況：3 件/直近 1 週間

近隣府県の感染拡大状況　：通常の医療提供体制が保たれている

〇被災地内における医療の状況

医療施設の被災状況　：一部の診療所が被災しているが、概ね再開している
発熱外来を開設している〇〇病院は開院している

避難所での医療提供状況　：DMAT 等外部からの応援医療従事者が巡回診療している

注意が必要な事項　：粉塵による呼吸器疾患（咳や喘息）を訴える住民が多い
疲労による不眠やストレス症状を訴える住民が多い

〇国・三重県の方針

国の方針　　:特別な方針は示されていない
三重県の方針　　:三重県指針 ver〇（感染予防を徹底すること）

〇新型コロナウイルスのワクチン接種状況について

被災地住民（接種率）　:〇〇市　1 回目〇%　2 回目〇%　3 回目〇%　4 回目〇%
△△町　1 回目〇%　2 回目〇%　3 回目〇%　4 回目〇%

〇熱中症対策・破傷風ワクチンについて

・連日 30 度を超える猛暑日が続いているので、熱中症対策を徹底しましょう
前日は過度な飲酒を避けて充分な睡眠をとる　こまめに水分を取る　定期的に休んで体を冷やす
仲間同士で声をかけ合い、顔色を確認する　35 度を超える場合は炎天下作業を中断する　など
・特に土砂に触る活動をする方は、破傷風ワクチン接種を呼びかけましょう
ボランティアに参加する前に、破傷風ワクチンの接種をしておくことで、破傷風のリスクを軽減できます。
ワクチンは 10 年程度持続しますので、子どもの頃接種した実績があっても免疫が低下している事があります。かかりつけの病院等で相談する様呼びかけてください。

（別紙 1）

有識者や県災対本部医療支援班の意見を踏まえ、みえ災害ボランティア支援センターで作成します

作成例 1・解説

災害ボランティア受援方針を定めるための「医学的アドバイス」

2022 年〇月×日現在

※このアドバイスは市町や市町災害ボランティアセンターが「受援方針」を作成するための参考にしてください

※有効期限は 1 週間（〇月△日）までとしますが、期限を待たずに更新される場合があります

作成：み

支援団体や住民にも参考にしてもらうため、読みやすさを考えたキャッチフレーズを入れる

〇医学的アドバイス

クラスターが発生しない対策を徹底した上で
災害ボランティアの受入を進めましょう

☆ワクチン・抗原定性検査キットについて

活動のリスク分類ごとに具体的留意点を具体的に示します

として住民と接する活動の参加者はワクチン 3 回接種済の方に限定しましょう

者などを対象とする活動の場合はさらに抗原定性検査の併用も検討しましょう

非接種の方は住民と接点を持たない活動に限るなど工夫しましょう

住民：ワクチン接種有無に関わらず支援しましょう

「屋外(非接触)」での活動　：活動の前後（集合時や反省会等）や休憩中の対策を徹底して実施してください

「屋外(接触)」での活動　：ボランティア同士、ボランティアと被災者、被災者同士の感染が起きないよう対策を徹底した上で実施してください

「屋内（非接触）」での活動　：会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底して実施してください

「屋内（接触）」での活動　：ボランティア同士、ボランティアと被災者、被災者同士の感染が起きないよう対策を徹底した上で実施してください

「調整作業」での活動　：会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底して実施してください

被災地内の直近の感染状況が分かるデータを示します

〇新型コロナウイルスの感染拡大状況

被災地の感染拡大状況　：通常の医療提供体制が保たれている
直近 1 週間の新規陽性者数：〇人　クラスター発生状況：確認されていない

県内の感染拡大状況　：通常の医療提供体制が保たれている
直近 1 週間の新規陽性者数：△人　クラスター発生状況：3 件/直近 1 週間

近隣府県の感染拡大状況　：通常の医療提供体制が保たれている

〇被災地内における医療の状況

医療施設の被災状況　：一部の診療所が被災しているが、概ね再開している
発熱外来を開設している〇〇病院は開院している

避難所での医療提供状況　：DMAT 等外部からの応援医療従事者が巡回診療している

注意が必要な事項　：粉塵による呼吸器疾患（咳や喘息）を訴える住民が多い
疲労による民が多い

国や県、市町で移動制限などが呼びかけられている場合、参考に示しましょう

〇国・三重県の方針

国の方針　　:特別な方針は示されていない
三重県の方針　　:三重県指針 ver〇（感染予防を徹底すること）

〇新型コロナウイルスのワクチン接種状況について

被災地住民（接種率）　:〇〇市　1 回目〇%　2 回目〇%　3 回目〇%　4 回目〇%
△△町　1 回目〇%　2 回目〇%　3 回目〇%　4 回目〇%

〇熱中症対策・破傷風ワクチンについて

・連日 30 度を超える猛暑日が続いているので、熱中症対策を徹底しましょう
前日は過度な飲酒を避けて充分な睡眠をとる　こまめに水分を取る　定期的に休んで体を冷やす
仲間同士で声をかけ合い、顔色を確認する　35 度を超える場合は炎天下作業を中断する　など
・特に土砂に触る活動をする方は、破傷風ワクチン接種を呼びかけましょう
ボランティアに参加する前に、破傷風ワクチンの接種をしておくことで、破傷風のリスクを軽減できます。
ワクチンは 10 年程度持続しますので、子どもの頃接種した実績があっても免疫が低下している事があります。かかりつけの病院等で相談する様呼びかけてください。

（別紙 2）

作成例 2

災害ボランティア受援方針を定めるための「医学的アドバイス」

2022 年〇月◎日現在

※このアドバイスは市町や市町災害ボランティアセンターが「受援方針」を作成するための参考にしてください

※有効期限は 1 週間（〇月△日）までとしますが、期限を待たずに更新される場合があります

作成：みえ災害ボランティア支援センター

〇医学的アドバイス

被災地の医療提供体制が逼迫しているため
接触を伴う活動を行う場合はワクチン接種の確認を徹底すると
共に、抗原検査の利用などリスク軽減策を徹底しましょう

☆ワクチン・抗原定性検査キットについて

ボランティア：原則としてすべてのボランティア参加者はワクチン 3 回接種済の方に限定しましょう
65 歳以上や基礎疾患のある方、ワクチン非接種者など、重症化リスクの高い方はできるだけ現地での活動を控え、外からできる支援を検討しましょう

住民：ワクチン接種有無に関わらず支援しましょう
避難所などで集団生活をしている場合は定期的な抗原検査の実施も検討しましょう

「屋外(非接触)」での活動　：活動の前後（集合時や反省会等）や休憩中の対策を徹底して実施してください

「屋外(接触)」での活動　：標準的な感染対策に加え、ボランティア、被災者ともに活動直前の抗原検査を行う等リスク軽減策を強化してください

「屋内（非接触）」での活動　：会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底して実施してください

「屋内（接触）」での活動　：標準的な感染対策に加え、ボランティア、被災者ともに活動直前の抗原検査を行う等リスク軽減策を強化してください

「調整作業」での活動　：会話時のマスク着用や活動前後、休憩中の対策を徹底すると共に、毎日抗原検査を行う等リスク軽減策を強化してください

※募集の範囲について　：活動中に発症した場合、適切に医療を受けられなかったり療養場所を確保できないリスクがあるため、募集範囲を日帰り可能な範囲に限定する/療養場所を確保できるひとに限定する　なども検討してください

〇新型コロナウイルスの感染拡大状況

被災地の感染拡大状況　：医療提供体制が逼迫しており重症者の受入が難しくなっている
直近 1 週間の新規陽性者数：〇人　病床使用率：□%

県内の感染拡大状況　：感染拡大期にある
直近 1 週間の新規陽性者数：△人　クラスター発生状況：〇件/直近 1 週間

近隣府県の感染拡大状況　：感染拡大期にある

注意が必要な都道府県　：〇〇では感染が急拡大している

〇被災地内における医療の状況

医療施設の被災状況　　：被災による稼働率の低下と感染拡大により重症者の受入が難しくなっている
　　被災地外に重症患者を搬送している
避難所での医療提供状況　：多くの避難所で軽症者用隔離スペースが必要となっている
　　DMAT 等外部からの応援医療従事者が巡回診療している
注意が必要な事項　　：住民内でクラスターが発生しており、市中感染のリスクが高まっている
　　粉塵による呼吸器疾患（咳や喘息）を訴える住民が多い
　　疲労による不眠やストレス症状を訴える住民が多い

〇国・三重県の方針
国の方針　　：特別な方針は示されていない
三重県の方針　　：三重県指針 ver〇（感染予防を徹底すること）
　　被災地内外の移動について、原則控えるよう呼びかけている
　　（移動する場合は緊急性の有無をしっかり確認すること）

〇新型コロナウイルスのワクチン接種状況について
被災地住民（接種率）　：〇〇市　1 回目〇%　2 回目〇%　3 回目〇%　4 回目〇%
　　△△町　1 回目〇%　2 回目〇%　3 回目〇%　4 回目〇%

〇熱中症対策・破傷風ワクチンについて
・連日 30 度を超える猛暑日が続いているので、熱中症対策を徹底しましょう
　前日は過度な飲酒を避けて充分な睡眠をとる　こまめに水分を取る　定期的に休んで体を冷やす
　仲間同士で声をかけ合い、顔色を確認する　35 度を超える場合は炎天下作業を中断する　など
・特に土砂に触る活動をする方は、破傷風ワクチン接種を呼びかけましょう
　ボランティアに参加する前に、破傷風ワクチンの接種をしておくことで、破傷風のリスクを軽減できます。
　ワクチンは 10 年程度持続しますので、子どもの頃接種した実績があっても免疫が低下している事があります。かかりつけの病院等で相談する様呼びかけてください。

（参考）
新型コロナウイルス感染症における重症化リスクの高い方
・高齢者(65 歳以上)
・基礎疾患等のある方
　基礎疾患等の例　：　慢性閉塞性肺疾患(COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙
・一部の妊娠後期の方

（別紙 3）

作成例 1

災害ボランティア受援方針を定めるための「地元の声」

2022 年〇月×日現在

※この指針の内容は作成段階のものです。災害時の情報は頻繁に更新されるのでご注意ください。

作成：□□市災害対策本部災害ボランティア班

1. □□市の基礎情報

人口：00,000 人　世帯数：00,000 世帯　65 歳以上：00,000 人(高齢化率〇%)
外国人：000 人(000 世帯)　乳幼児(小学生未満)：0,000 人　学生（小中高生）：0,000 人
身体障がい者：000 人　精神障害者：00 人

2. □□市の被災状況

全壊：00 棟　大規模半壊：00 棟　半壊：000 棟　床上浸水：0,000 棟　床下浸水：0,000 棟
土砂崩れ：□ヶ所　孤立集落：△ヶ所（00 人　00 世帯）　被害状況地図は別紙あり
避難者数：0,000 人（避難所 0,000 人 0,000 世帯　その他 0,000 人 0,000 世帯(被災家屋数から推定)）

3. □□市の行政支援の状況

避難所の開設：【一般】00 ヶ所　【福祉】0 ヶ所　【ホテル・民宿利用】0 ヶ所
応急仮設住宅の供与：【建築型】－（計画策定中）　【賃貸型】－（計画策定中）
炊き出しその他食品の供与：0,000 人分を避難所に配付
飲料水の提供：0 ヶ所に給水所
被服、寝具その他生活必需品の供与または貸与：毛布 0,000 セットを避難所に配付
医療及び助産：DMAT〇チーム
被災者の救出：自衛隊のべ 0,000 人、消防のべ 0,000 人　〇月◎日終了
住宅の応急修理：－（計画策定中）
学用品の給与：－（計画策定中）
埋葬：□□火葬場被災のため近隣市町に応援依頼
行方不明者の捜索・ご遺体処理：自衛隊 000 人
障害物の除去：国道・啓開済　県道・60%　市道・40%
その他：電気・市内全域で復旧　水道・断水復旧率 60%　ガス・復旧率 30%　下水道・復旧率 60%
通信・概ね回復　公共機関（鉄道、バス）・再開　公共施設・被災していない施設は再開
小中学校・半日授業を再開（給食施設被災のため）　幼稚園、保育園・被災した一部で休園中
高校・授業を再開　□□大学・授業を再開

4. □□市被災地内の新型コロナウイルス対応状況

立入規制等の実施状況

- 避難所
  - 原則、避難者のみ（コロナ対策＋防犯・プライバシー保護）

- 避難者も名簿作成し、入退、検温記録
- 行政の支援関係者（避難所運営支援、支援物資搬入、炊き出し搬入、医療チーム等）のみ検温、手指消毒、マスク着用で入場可

- 激甚被災地（〇〇町、□□町、△△地区）
  - 許可車両以外の立入禁止（二次災害対策、渋滞緩和、治安対策）

応援職員等の受入状況

- 業務応援職員
  - 応援依頼をした市町（〇〇市、△△市、□□町）に限定、会話時のマスク着用、毎日の健康観察、住民との接点のない活動を優先（避難所駐在支援は県内職員に限定）
- 復旧工事従事者
  - 居住地の制限はなし、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察
- 福祉事業所応援職員
  - 県内に限定、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察
- 一般（県外の方）向け
  - 『新しい生活様式』を心掛けた行動（『三重県指針』ver.0）
  - 感染者が多数発生しているエリアにお住いやお勤めの方は、三重県への移動について、今その必要があるか、一度立ち止まって考えていただき、体調がすぐれない場合は移動を避ける（『三重県指針』ver.0）
  - 「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」のインストール（『三重県指針』ver.0）

〇地域住民の声

（自治会長、避難所自治組織リーダー、民生委員、地元医師会、青年会議所、障がい者団体、乳幼児世帯、ひとり親世帯、女性団体など）

- 感染の不安
  - 高齢化率の高い地域なので、感染者が出たら重症化するのでは、と怖い
  - 万が一避難所でクラスターが発生したら、と思うと不安
- 復旧に向けた不安
  - 支援がなかなか届かない中、自分たちだけでやるには限界がある
  - 避難所に行くのが不安で被災した自宅に残って居るひとが多い。とても支援の手が回っていない
  - どこから手を付けていいか判らない、途方に暮れている
  - 自宅の片付けだけでも手が回らない。生活道路や地域の集会所の復旧も手つかず
  - 不眠や持病の悪化など、生活環境レベルの低下やストレスによる健康被害が心配

（別紙 3）

作成例 1・解説

災害ボランティア受援方針を定めるための「地元の声」

毎年 1 回（年度始めや総合防災訓練の際）に更新しておくと災害時にすぐ利用できます

2021 年〇月×日現在

※ 指針の内容は作成段階のものです。災害時の情報は頻繁に更新されるのでご注意ください。

作成：□□市災害対策本部災害ボランティア班

1. □□市の基礎情報

人口：00,000 人　世帯数：00,000 世帯　65 歳以上：00,000 人（高齢化率〇%）

外国人：000 人（000 世帯）　　、学生（小中高生）：0,000 人

身体障がい者：000 人　精神

災対本部で共有する資料の抜粋ですが、そのまま配付できるものは配った方が楽でしょう

2. □□市の被災状況

全壊：00 棟　大規模半壊：00 棟　半壊：000 棟　床上浸水：0,000 棟　床下浸水：0,000 棟

土砂崩れ：□ヶ所　孤立集落：△　　況地図は別紙あり

避難者数：0,000 人（避難所 0,000　　人 0,000 世帯（被災家屋数から推定））

災対本部で共有する資料の抜粋ですが、そのまま配付できるものは配った方が楽でしょう

3. □□市の行政支援の状況

避難所の開設：【一般】00 ヶ所　【福祉】0 ヶ所　【ホテル・民宿利用】0 ヶ所

応急仮設住宅の供与：【建築型】－（計画策定中）　【賃貸型】－（計画策定中）

炊き出しその他食品の供与：0,000 人分を避難所に配付

飲料水の提供：0 ヶ所に給水所

被服、寝具その他生活必需品の供与または貸与：毛布 0,000 セットを避難所に配付

医療及び助産：DMAT〇チーム

被災者の救出：自衛隊のべ 0,000 人、消防のべ 0,000 人　〇月◎日終了

住宅の応急修理：－（計画策定中）

学用品の給与：－（計画策定中）

埋葬：□□火葬場被災のため近隣市町に応援依頼

行方不明者の捜索・ご遺体処理：自衛隊 000 人

障害物の除去：国道・啓開済　県道・60%　市道・40%

その他：電気・市内全域で復旧　水道・断水復旧率 60%　ガス・復旧率 30%　下水道・復旧率 60%

通信・概ね回復　公共機関（鉄道、バス）・再開　公共施設・被災していない施設は再開

小中学校・半日授業を再開（給食施設被災のため）　幼稚園、保育園・被災した一部で休園中

高校・授業を再開　□□大学・授業を再開

この資料も災対本部の資料として作る可能性があると思います。無い場合は避難所マニュアルなどを元に実情を確認して共有しましょう

4. □□市被災地内の新型コロナウイルス対応状況

立入規制等の実施状況

- 避難所
  - 原則、避難者のみ（コロナ対策＋防犯・プライバシー保護）

- 避難者も名簿作成し、入退、検温記録
- 行政の支援関係者（避難所運営支援、支援物資搬入、炊き出し搬入、医療チーム等）のみ検温、手指消毒、マスク着用で入場可

- 激甚被災地（〇〇町、□□町、△△地区）
  - 許可車両以外の立入禁止（二次災害対策、渋滞緩和、治安対策）

応援職員等の受入状況

- 業務応援職員
  - 応援依頼をした市町（〇〇市、△△市、□□町）に限定、会話時のマスク着用、毎日の健康観察、住民との接点のない活動を優先（避難所駐在支援は県内職員に限定）
- 復旧工事従事者
  - 居住地の制限はなし、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察
- 福祉事業所応援職員
  - 県内に限定、会話時のマスク
- 一般（県外の方）向け
  - 『新しい生活様式』を心掛けた
  - 感染者が多数発生しているエ 移動について、今その必要があるか、一度立ち止まって 避ける（『三重県指針』ver.0）
  - 「新型コロナウイル 確認 指針』ver.0）

この情報は第 1 報など立ち上げ初期はなくても良いでしょう。情報が入ればそれを整理しておくと、ボランティアだけではなく災対本部業務全体で価値のある情報になるはずです。

落ち着いてきたら、災害ボランティアセンターや NPO/ボランティア団体が現地で入手した声も追加していけると良いでしょう

〇地域住民の声

（自治会長、避難所自治組織リーダー、民生委員、地元医師会、青年会議所、障がい者団体、乳幼児世帯、ひとり親世帯、女性団体など）

- 感染の不安
  - 高齢化率の高い地域なので、感染者が出たら重症化するのでは、と怖い
  - 万が一避難所でクラスターが発生したら、と思うと不安
- 復旧に向けた不安
  - 支援がなかなか届かない中、自分たちだけでやるには限界がある
  - 避難所に行くのが不安で被災した自宅に残って居るひとが多い。とても支援の手が回っていない
  - どこから手を付けていいか判らない、途方に暮れている
  - 自宅の片付けだけでも手が回らない。生活道路や地域の集会所の復旧も手つかず
  - 不眠や持病の悪化など、生活環境レベルの低下やストレスによる健康被害が心配

（別紙 4）

作成例 2

災害ボランティア受援方針を定めるための「地元の声」

2022 年◎月□日現在

※この指針の内容は作成段階のものです。災害時の情報は頻繁に更新されるのでご注意ください。

作成：□□市災害対策本部災害ボランティア班

1. □□市の基礎情報

人口：00,000 人　世帯数：00,000 世帯　65 歳以上：00,000 人(高齢化率〇%)

外国人：000 人(000 世帯)　乳幼児(小学生未満)：0,000 人　学生（小中高生）：0,000 人

身体障がい者：000 人　精神障害者：00 人　**詳細は別紙：□□市人口統計情報・を参照してください**

2. □□市の被災状況

全壊：00 棟　大規模半壊：00 棟　半壊：000 棟　床上浸水：0,000 棟　床下浸水：0,000 棟

詳細は別紙：災害対策本部◎月□日資料 0～0 を参照してください

3. □□市の行政支援の状況

避難所の開設：【一般】00 ヶ所　【福祉】0 ヶ所　【ホテル・民宿利用】0 ヶ所

応急仮設住宅の供与：【建築型】0 ヶ所 00 棟（◎月▽日より入居開始予定）

【賃貸型】00 室（◎月×日より入居開始）

詳細は別紙：災害対策本部◎月□日資料 0～0 を参照してください

4. □□市被災地内の新型コロナウイルス対応状況

立入規制等の実施状況

- **感染対策の強化について**
  - 被災地内の医療提供体制が逼迫しているため、**被災地内外の出入りは対策を徹底した上で必要性を検討するよう要請**
- 避難所
  - 原則、避難者のみ（コロナ対策＋防犯・プライバシー保護）
  - 避難者も名簿作成し、入退、検温記録
  - 行政の支援関係者（避難所運営支援、支援物資搬入、炊き出し搬入、医療チーム等）のみ検温、手指消毒、マスク着用で入場可
- 激甚被災地（〇〇町、□□町、△△地区）
  - 許可車両以外の立入禁止（二次災害対策、渋滞緩和、治安対策）

応援職員等の受入状況

- 業務応援職員
  - 応援依頼をした市町（〇〇市、△△市、□□町）に限定、会話時のマスク着用、毎日の健康観察、住民との接点のない活動を優先（避難所駐在支援は県内職員に限定）
- 復旧工事従事者

- 居住地の制限はなし、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察

- 福祉事業所応援職員
  - 県内に限定、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察
- 一般（県外の方）向け
  - **被災地内への往来の必要性を十分検討するよう要請**
  - 『新しい生活様式』を心掛けた行動（『三重県指針』ver.0）
  - 感染者が多数発生しているエリアにお住いやお勤めの方は、三重県への移動について、今その必要があるか、一度立ち止まって考えていただき、体調がすぐれない場合は移動を避ける（『三重県指針』ver.0）
  - 「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」のインストール（『三重県指針』ver.0）

〇地域住民の声
（自治会長、避難所自治組織リーダー、民生委員、地元医師会、青年会議所、障がい者団体、乳幼児世帯、ひとり親世帯、女性団体など）

- 感染の不安
  - 高齢化率の高い地域なので、感染者が出たら重症化するのでは、と怖い
  - 避難所でクラスターが発生しているので、被災した自宅で避難している。支援も情報も少なく不安
  - 自分が感染していたらと思うと、誰かに会うのが怖い。
- 復旧に向けた不安
  - 支援がなかなか届かない中、自分たちだけでやるには限界がある
  - 避難所に行くのが不安で被災した自宅に残って居るひとが多い。とても支援の手が回っていない
  - どこから手を付けていいか判らない、途方に暮れている
  - 自宅の片付けだけでも手が回らない。生活道路や地域の集会所の復旧も手つかず
  - 不眠や持病の悪化など、生活環境レベルの低下やストレスによる健康被害が心配
- 医療体制の切迫
  - 重症者の受入で被災地近隣の新型コロナ対応病床が逼迫している
  - 避難所の医療班も感染対策しながらの対応のため、対応できる人数が制限されている
  - 濃厚接触者の追跡も十分にできないため、人同士の接触を減らして感染者を減らしてほしい

（別紙 5）

作成例 3

災害ボランティア受援方針を定めるための「地元の声」

2022 年△月▽日現在

※この指針の内容は作成段階のものです。災害時の情報は頻繁に更新されるのでご注意ください。

作成：□□市災害対策本部災害ボランティア班

1. □□市の基礎情報

人口：00,000 人　世帯数：00,000 世帯　65 歳以上：00,000 人(高齢化率〇%)

外国人：000 人(000 世帯)　乳幼児(小学生未満)：0,000 人　学生（小中高生）：0,000 人

身体障がい者：000 人　精神障害者：00 人　**詳細は別紙：□□市人口統計情報・を参照してください**

2. □□市の被災状況

全壊：00 棟　大規模半壊：00 棟　半壊：000 棟　床上浸水：0,000 棟　床下浸水：0,000 棟

詳細は別紙：災害対策本部△月▽日資料 0～0 を参照してください

3. □□市の行政支援の状況

避難所の開設：【一般】△月▽日すべて閉所　【福祉】0 ヶ所　【ホテル・民宿利用】0 ヶ所

応急仮設住宅の供与：【建築型】0 ヶ所 00 棟入居済　【賃貸型】00 室

特記事項　・生活相談支援員 4 組 8 名を緊急雇用、訪問支援を始めた

・出張行政相談を被災した各地域で開催予定

詳細は別紙：災害対策本部△月▽日資料 0～0 を参照してください

4. □□市被災地内の新型コロナウイルス対応状況

立入規制等の実施状況

- 激甚被災地（△△地区）　〇〇町、□□町は解除
  - 許可車両以外の立入禁止（二次災害対策、渋滞緩和、治安対策）

応援職員等の受入状況

- 業務応援職員
  - 応援依頼をした市町に限定、会話時のマスク着用、毎日の健康観察、住民との接点のない活動を優先
- 復旧工事従事者
  - 居住地の制限はなし、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察
- 福祉事業所応援職員
  - 派遣前 PCR 検査を要請、会話時のマスクの着用、毎日の健康観察
- 一般（県外の方）向け
  - 『新しい生活様式』を心掛けた行動（『三重県指針』ver.0）
  - 「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」のインストール（『三重県指針』ver.0）

〇地域住民の声

□□市災害ボランティアセンター内に資料を設置。閲覧希望は災害ボランティアセンターに申請のこと。

（別紙 6）

災害直後
支援活動立ち上げ期の例

作成例 1

災害ボランティア受援方針を定めるための「ボランティアミッション」

2022 年〇月×日現在

※このミッションは概ね 1 ヶ月（□月×日）までを目処に、復旧状況に応じて更新を目指します。

作成：□□市災害ボランティアセンター

□□市が目指す1ヶ月後の復旧の姿

被災した一人ひとりが、孤立せず、多くのつながりを持てている
被災した一人ひとりが、自分のめざしたい復興について、選択肢を持てている
被災した地域の住居や道路のがれき撤去が終わり、安全に往来できる

- **実現するために必要な支援活動の想定**
  - 被災家屋回復（泥かき、片付け、清掃、床はがし、消毒、屋根補修、床下乾燥、物資提供など）
  - 避難所生活支援（運営、衛生管理、清掃、物資対応、介助、炊き出し等）
  - 在宅/車中避難者支援（把握調査、炊き出し、物資提供、住環境整備など）
  - 要配慮者対応（要介護、医療、障害、認知症、ペット、妊婦、子育て、子ども、外国人、LGBTQ など）
  - 心のケア（傾聴、慰問、マッサージ、グリーフケア、サロン、写真洗浄、運動/体操など）
  - 生業/仕事支援（農林水産業再開支援、被災商品活用、店舗再開、再就職支援など）
  - 情報提供（行政相談、法律相談、家屋の片付け講座、家屋の修繕相談、保険相談、お金の相談など）

- **必要な支援規模の概算（1 ヶ月）**
  - 一般ボランティア（泥かき、片付けなど、災害ボランティアセンターで募集する人）

被害規模	被害棟数	住民対応力	支援が必要な棟数	1 棟に必要なのべ人数	必要人数	備考
全壊	50	70%	15	5(5 人×1 日)	75	重機 NPO と協業
大規模半壊	100	70%	30	50(10 人×5 日)	1,500	
半壊	300	70%	90	40(10 人×4 日)	3,600	
床上浸水	500	70%	150	30(5 人×6 日)	4,500	
床下浸水	800	70%	240	15(5 人×3 日)	3,600	
被災棟数	**1,750**	**合計　のべ必要ボランティア数**			**13,275**	**（人・日）**

（　参考：住民対応力 70%とすると、住民自身による支援活動者数は、のべ 30,975(人・日)　）

➢ その他のボランティア（避難所生活支援、要配慮者支援、心のケア など）

支援対象	要支援 11 者数	支援可能数 （一人あたり）	必要な 支援者数	活動日数 （回/月）	のべ必要 支援者数	備考
避難所支援	2,000	100	20	30	600	運営、炊出し等
在宅/車中	1,500	50	30	30	900	把握、炊出し等
要配慮者	2,500	10	250	8	2,000	個別支援等
心のケア	2,000	5	400	8	3,200	傾聴等
生業/仕事	300	0.1	3,000	4	12,000	田畑泥だし等
情報	500	10	50	2	100	法律相談等
のべ人数	8,800	**合計 のべ必要支援者数**			**18,800**	**（人・日）**

（被災者数 4,000 人）

（別紙 6）

災害直後
支援活動立ち上げ期の例

復旧/復興の状況に応じて更新していくことが大切です

作成例 1・解説

災害ボランティア受援方針を定めるための「ボランティアミッション」

想像ではなく、過去の事実などから具体的に作成する
経験者（アドバイザー）の助言を得ながら市町の災害ボランティアセンターなどで作成しましょう

2022 年〇月 × 日現在

概ね 1 ヶ月（□月 × 日）までを目処に、復旧状況に応じて更新を目指します。

作成：□□市災害ボランティアセンター

共有すべき「ミッション」
各団体の取組が、この姿に繋がるかどうかを判断の基準とする

□□市が目指す1ヶ月後の復旧の姿

被災した一人ひとりが、孤立せず、多くのつながりを持てている
被災した一人ひとりが、自分のめざしたい復興について、選択肢を持てている
被災した地域の住居や道路のがれき撤去が終わり、安全に往来できる

どのような支援が必要か
【被災者の目線で】取り上げる
（実現可能性は後で考えること）

- **実現するために必要な支援活動の想定**
  - 被災家屋回復（泥かき、片付け、清掃、床はがし、消毒、屋根補修、床下乾燥、物資提供など）
  - 避難所生活支援（運営、衛生管理、清掃、物資対応、介助、炊き出し等）
  - 在宅/車中避難者支援（把握調査、炊き出し、物資提供、住環境整備など）
  - 要配慮者対応（要介護、医療、障害、認知症、ペット、妊婦、子育て、子ども、外国人、LGBTQ など）
  - 心のケア（傾聴、慰問、マッサージ、グリーフケア、サロン、写真洗浄、運動/体操など）
  - 生業/仕事支援（農林水産業再開支援、被災商品活用、店舗再開、再就職支援など）
  - 情報提供（行 [illegible] け講座、 [illegible] 金の相談など）

「自助（自分や家族、親戚）」「互助（地域の助け合い）」で対応できる目安を日頃の地域力や年齢構成などから**【仮置き】**する

被害の出方や支援の方法によって変わるが、全体の規模感を想定するために【仮置き】する
実情に応じて都度修正していく

- **必要な支援** [illegible]
  - 一般ボランティア（ [illegible] き、片付けなど、災害ボランティアセンターで [illegible] する人）

被害規模	被害棟数	住民対応力	支援が必要な棟数	1 棟に必要なのべ人数	必要人数	備考
全壊	50	70%	15	5(5 人×1 日)	75	重機 NPO と協業
大規模半壊	100	70%	30	50(10 人×5 日)	1,5 [illegible]	
半壊	300	70%	90	40(10 人×4 日)	3,6 [illegible]	
床上浸水	500	70%	150	30(5 人×6 日)	4,5 [illegible]	
床下浸水	800	70%	240	15(5 人×3 日)	3,600	
被災棟数	**1,750**	**合計　のべ必要ボランティア数**			**13,275**	**（人・日）**

状況により大きく変動し得る数字
大雑把な目安なので数字だけが一人歩きしないように気をつける
【倍半分】倍以上になる可能性もあれば半分程度で済むこともありえる

（　参考：住民対応力 70%とすると、住民自身による支援活動者数は、のべ 30,975(人・日)　）

➢ その他のボランティア（避難所生活支援、要配慮者支援、心のケア　など）

支援対象	要支援者数	支援可能数（一人あたり）	必要な支援者数	活動日数（回/月）	のべ必要支援者数	備考
避難所支援	2,000	100	20	30	[illegible]	[illegible]
在宅/車中	1,500	50	30	30	[illegible]	[illegible]
要配慮者	2,500	10	250	8	[illegible]	[illegible]
心のケア	2,000	5	400	8	3,200	傾聴等
生業/仕事	300	0.1	3,000	4	12,000	田畑泥だし等
情報	500	10	50	2	100	法律相談等
のべ人数	8,800	合計　のべ必要支援者数			18,800	（人・日）

（被災者数　4,000 人）

災害ボランティアセンターを経由しない支援活動の規模感を想定するために、これらの項目も検討しておくこと。

「支援可能数」とは、ボランティア1人あたりで1日に支援できる見込の要支援者数です。
人数が「0.1」となっているのは、1ヶ所(ひとり)の生業/仕事支援ニーズに対して、10人のボランティアが必要と想定される，という意味です

（注）
この表の人数はかなり雑（制作者の過去経験や過去の報告実績などに基づかない数値）です

（別紙 7）

発災 1 か月後程度
生活支援立ち上げ期の例

作成例 2

災害ボランティア受援方針を定めるための「ボランティアミッション」

2022 年△月◎日現在

※このミッションは概ね 1 ヶ月（□月×日）までを目処に、復旧状況に応じて更新を目指します。

作成：□□市災害ボランティアセンター

○○市が目指す 3 ヶ月後の復旧の姿

被災した一人ひとりが、自分のめざしたい復興について歩み始めている
将来に不安を抱えているすべての人のそばに、寄りそう人が居る・相談できる場所がある

- **実現するために必要な支援活動の想定**
  - 災害ボランティアセンターから地域支え合いセンターへの移行
  - 被災家屋回復（遅れている地域への重点支援・公費解体家屋からの貴重品運び出し）
  - 避難所生活支援（避難所集約のための引越支援、仮設住宅への転居支援）
  - 在宅/車中避難者支援（把握調査、炊き出し、物資提供、公民館でのサロンなど）
  - 要配慮者対応（子どもの居場所づくり、学習支援）
  - 心のケア（仮設住宅集会所でのサロン、生活相談支援事業との連携）
  - 生業/仕事支援（農林水産業再開支援、被災商品活用、店舗再開、再就職支援など）
  - 情報提供（行政相談、法律相談、家屋の修繕相談、保険相談、お金の相談など）
  -
- **必要な支援規模の概算（2 ヶ月～3 か月）**
  - 一般ボランティア（泥かき、片付けなど、災害ボランティアセンターで募集する人）

被害規模	ニーズ残棟数	1 棟に必要なのべ人数	必要人数	備考
全壊	5	5(5 人×1 日)	25	重機 NPO××××と協業
大規模半壊	7	20(10 人×2 日)	140	
半壊	10	20(10 人×2 日)	200	
床上浸水	100	10(5 人×2 日)	1,000	
床下浸水	0		0	
ニーズ残棟数	**145**	**必要ボランティア数**	**1,365**	**（人・日）**

（ 参考：災害ボランティアセンターは、のべ 11,255(人・日)○月×日現在 ）

➢ その他のボランティア（避難所生活支援、要配慮者支援、心のケア　など）
協働プラットフォームの開催（週1回）

支援対象	要支援者数	関与しているNPO・ボランテイア団体　等	主な活動
避難所支援	180	NPO 法人〇〇〇〇	運営支援等
在宅/車中	280 世帯	△△△△財団	把握、一品炊出し等
要配慮者	300	子どもNPO□□、●●大学ボランティアチーム	個別支援等
心のケア	2,000	傾聴ボランティア◎◎	傾聴等
生業/仕事	180	JA〇〇、〇〇JC、〇〇組合	収穫支援等
情報	2,500	△△弁護士会	法律相談等

（別紙 8）

発災 3 か月後程度
支援主体地元移行期の例

作成例 3

災害ボランティア受援方針を定めるための「ボランティアミッション」

2022 年〇月●日現在

※このミッションは概ね 1 ヶ月（□月 × 日）までを目処に、復旧状況に応じて更新を目指します。

作成：□□市災害ボランティアセンター

〇〇市が目指す 6 ヶ月後の復旧の姿

被災した一人ひとりに居場所があり、新しい暮らしの中で日常を取り戻している
災害前より災害に強いまちづくりが始まっている
地域の中で新たな支え合いの担い手が立ち上がり、地域の中でのつながりが強まっている

- **実現するために必要な支援活動の想定**
  - ボランティアセンター/市民活動センターによる地元住民を主体とした団体の新規立ち上げ支援
  - 復興祈願事業の開催・芸能人慰問活動の受け入れ
  - 仮設住宅生活支援（訪問相談・見守り・サロン・住環境改善）
  - 在宅避難者支援（訪問相談・見守り・サロン・住環境改善）
  - 子ども支援（放課後教室）
  - 生業/仕事支援（農林水産業支援）
  - 情報提供（行政相談、法律相談、家屋の修繕相談、保険相談、お金の相談など）
- **必要な支援規模の概算（4 ヶ月～6 か月）**
  - 一般ボランティア（泥かき、片付けなど、災害ボランティアセンターで募集する人）
    〇月〇日災害ボランティアセンター閉所（追加ニーズは社協ボランティアセンターで都度対応）

  - その他のボランティア（避難所生活支援、要配慮者支援、心のケア　など）

支援対象	関与している NPO・ボランテイア団体　等	主な活動
団体立上げ	ボランティアセンター、市民活動センター	立ち上げ支援・場所提供
復興イベント	〇〇JC、〇〇市、商工会、〇〇市民有志	イベント実施
仮設住宅	地域支え合いセンター、NPO□□、●●婦人会	訪問・サロン
在宅避難者	地域支え合いセンター、民生児童委員、□□自治会	訪問・見守り
子ども	●●小 PTA、□□自治会、NPO△△	居場所・通学見守り
生業/仕事	JA〇〇、〇〇JC、〇〇組合	収穫支援
情報	△△弁護士会	法律相談等

（復旧・復興ビジョン作成メンバー、作成日、改定(予定)日も記載する）

（別紙 9）

作成例 1

□□市　ボランティア受援方針

作成日：〇〇年〇〇月〇〇日　　更新(予定)日：〇〇年〇〇月△△日

□□市における災害ボランティア活動は

感染拡大予防対策を徹底した上で、活動毎に参加人数を制限して受入できる体制をめざします

- **ワクチン 3 回接種済の方に限って**ボランティアを募集します
- 災害ボランティアセンターが募集する土砂除去、被災家財搬出、屋内清掃等については、**密を回避できる人数に制限した上で、事前予約制で募集**します
- その他支援団体（NPO・ボランティア団体、企業、その他有志グループによる活動）は、万が一の際にすみやかに連絡をとり感染拡大防止に取り組めるよう、**〇〇地域協働プラットフォームに連絡先を登録**して頂けるようお願いします
- 炊き出し/物資配布/サロンなど**住民を集めて行う活動に関しては、高齢者や基礎疾患等を持つ方が多数集まる場合、抗原定性検査キットによる陰性確認の併用も検討**してください

活動リスク分類ごとの受援指針

屋外(非接触)	会話時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします
屋外(接触)	作業時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします ハイリスクな方を対象とする場合は抗原定性検査キットによる陰性確認の併用も検討してください
屋内(非接触)	作業時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします
屋内(接触)	作業時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします ハイリスクな方を対象とする場合は抗原定性検査キットによる陰性確認の併用も検討してください
後方支援	活動中のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします

指針策定の背景資料

この受援指針は、以下の資料を基に策定しています。

「地元の声」　〇〇年〇〇月□□日版
「医学的アドバイス」　〇〇年〇〇月××日版
「ボランティアミッション」　〇〇年〇〇月〇〇日版

指針作成メンバー・団体

（別紙 9）

作成例 1・解説

□□市　ボランティア受援方針

作成日：〇〇年〇〇月〇〇日　　更新(　　)日：〇〇年〇〇月△△日

「地元の声」「医学的アドバイス」「復旧ビジョン」の 3 つを参考に作成

□□市における災害ボランティア活動は

感染拡大予防対策を徹底した上で、活動毎に参加人数を制限して受入できる体制をめざします

支援者や住民の方にも分かりやすく、具体的な方向性を示しましょう

- **ワクチン 3 回接種済の方に限って**ボランティアを募集します
- 災害ボランティアセンターが募集する土砂除去、被災家財搬
  いては、**密を回避できる人数に制限した上で、事前予約制で**
- その他支援団体（NPO・ボランティア団体、企業、その他有志グループによる活動）は、万が一の際にすみやかに連絡をとり感染拡大防止に取り組めるよう、**〇〇地域協働プラットフォームに連絡先を登録**して頂けるようお願いします
- 炊き出し/物資配布/サロンなど**住民を集めて行う活動に関しては、高齢者や基礎疾患等を持つ方が多数集まる場合、抗原定性検査キットによる陰性確認の併用も検討**してください

活動毎の感染リスクの違いにより、具体的にどのようなことへの配慮を求めるか記載しましょう

活動リスク分類ごとの受援指針

屋外(非接触)	会話時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします
屋外(接触)	作業時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします ハイリスクな方を対象とする場合は抗原定性検査キットによる陰性確認の併用も検討してください
屋内(非接触)	作業時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします
屋内(接触)	作業時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします ハイリスクな方を対象とする場合は抗原定性検査キットによる陰性確認の併用も検討してください
後方支援	活動中のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします

指針策定の背景資料

この受援指針は、以下の資料を基に策定しています。

「地元の声」　〇〇年〇〇月□□日版
「医学的アドバイス」　〇〇年〇〇月××日版
「ボランティアミッション」　〇〇年〇〇月〇〇日版

指針作成メンバー・団体

（別紙 10）

作成例 2

□□市　ボランティア受援方針

作成日：〇〇年〇〇月◎◎日　　更新(予定)日：〇〇年〇〇月▽▽日

□□市における災害ボランティア活動は

医療機関の逼迫が解消されるまで、重症化リスクが高い方のボランティア参加を見合わせた上で注意深く活動を行います

- **被災地内で感染が拡がっており、医療機関が逼迫しています。この状況が解消されるまでの間、重症化リスクの高い方のボランティア参加は見合わせをお願いします。**
- **万一発症したり濃厚接触者になった際に備え、ボランティアは原則日帰り可能な範囲の方に限定します。**
- その他支援団体（NPO・ボランティア団体、企業、その他有志グループによる活動）は、医療機関の逼迫解消に協力頂くため、**重症化リスクの高い方の参加自粛をお願いします**。
- 重症化リスクの高い住民の方に向けた活動を検討されている場合は、**活動前に支援者・参加者への抗原定性検査を実施する、ビデオ会議システムを活用するなど通常より高いレベルでの感染対策**を工夫するようお願いします。

活動リスク分類ごとの受援指針

屋外(非接触)	原則として日帰り可能な方のみに限定します 会話時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします
屋外(接触)	原則として日帰り可能な方のみに限定します 参加者への抗原定性検査を実施する、ビデオ会議システムを活用するなど、通常より高いレベルでの感染対策を行ってください
屋内(非接触)	原則として日帰り可能な方のみに限定します 会話時のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録について徹底をお願いします
屋内(接触)	原則として日帰り可能な方のみに限定します 参加者への抗原定性検査を実施する、ビデオ会議システムを活用するなど、通常より高いレベルでの感染対策を行ってください
後方支援	長期間活動を想定される場合は万が一の療養場所も確保してください 活動中のマスク着用、こまめな手洗い/手指消毒、朝夕の健康観察と記録、活動中の行動歴の記録と共に、定期的な抗原定性検査を実施してください

指針策定の背景資料

この受援指針は、以下の資料を基に策定しています。

指針作成メンバー・団体

「地元の声」　　〇〇年〇〇月□□日版
「医学的アドバイス」　〇〇年〇〇月◎◎日版
「ボランティアミッション」〇〇年〇〇月〇〇日版

（別紙 11）ボランティア個人への呼びかけ

災害ボランティア活動時の感染症予防のために

活動の各場面において個人にできる注意点をあげています。
必ず目を通して理解し、被災者を守りながら活動に参加しましょう。

＜出発前＞

○日ごろからの取り組み（参加する１週間前からを目安に）

●基礎知識を身につける

新型コロナウイルスの感染予防について基礎知識を再確認しておきましょう

（参考資料）東北医科薬科大学病院＞市民向け感染予防ハンドブック
https://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp/info/information/2326/

●体調の記録

毎朝夕に体温測定し、体調を記録しておきましょう。
37.5℃以上の発熱、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、咳、味覚・臭覚の異常、腹痛、下痢、吐き気等が有る場合は参加を延期しましょう。
外出せず、かかりつけ医に電話連絡して適切な処置を受けましょう。

体調が優れない場合は、当日であっても参加を取りやめましょう。
迷惑を掛けるからと体調不良を押して参加することが感染の拡大に繋がる可能性があります。（無断キャンセルは被災者にも迷惑を掛けるので、体調を崩した時点で必ず連絡を入れましょう）

●飲食を伴う/大人数/長時間におよぶ飲食の自粛

飲酒を伴う複数人との会食や大人数/長時間の食事会は控えましょう。
（同居家族等を除く）

●３密・リスクのある場所の回避やマスクの徹底

３密が生じるリスクが有る場所への外出をできるだけ避け、どうしても必要がある場合は必ずマスクをしましょう。

●地元・現地の感染状況の把握

地元や被災地における感染状況がどうなっているかしっかり情報収集し、移動の自粛等が呼びかけられている場合は参加を延期しましょう。

●ワクチンの接種

被災者と接するボランティアを行う場合は、原則として新型コロナウイルスワクチンを３回、ないし４回接種しておきましょう。

加えてMRおよび破傷風ワクチン接種歴を確認しましょう。

MRワクチンを２回接種していない場合は追加接種を検討しましょう。

破傷風ワクチンが未接種、あるいは接種から１０年以上経過している場合は、ケガしたときのリスクを下げるために、接種しましょう。

〇準備

●マスク

マスクを複数枚、自分で用意しておきましょう。（往路用、活動用、復路用等）

不織布、布、ウレタンなどの種類がありますが、ボランティアに参加する際は不織布マスクを準備してください。（飛沫の捕捉率が最も高いため）

フェイスシールド、マウスシールドは単独で使用しても飛沫拡散防止効果も飛沫吸入防止効果も非常に低いので、使う場合は不織布マスクと併用しましょう。

●ボランティア活動保険への加入

感染症予防の必要有無にかかわらず、出発前にボランティア活動保険へ加入しましょう。出発前に加入することで、往路での事故も補償の対象となります。

●検温の記録

検温の提示を求められる場合がありますので準備しておきましょう。

●保険証

活動場所での緊急事態に備え、必ず携帯しておきましょう。

＜活動中＞

〇現地への移動

●３密を避けた移動手段

３密を避け、感染予防対策がとられている移動手段を選びましょう。自家用車に乗り合わせる場合、外気導入＋後席の窓を開ける等換気を徹底しましょう。

●移動中の感染予防

移動中、他者と接する場面では必ずマスクを着用し、こまめに石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を実施してください。

○活動現場での注意点

●間合いの確保とマスクの着用

感染リスクを下げるため、できるだけ他者とは距離を 2m 以上開けて活動しましょう。2m 以内で活動する場合、会話をする場合は必ずマスクを着用しましょう。

●室内の場合は換気の確認

活動場所が室内の場合換気されているか確認しましょう。換気が充分でない場所と感じる場合は勇気を持って改善提案しましょう。

窓がある場合は風の流れができるよう２方向の窓を常時開放しましょう。常時開放できない場合は、30 分に１回、５分間程度全開にしましょう。窓がなくドアが１つの部屋の場合、換気扇や扇風機、サーキュレーターを併用しましょう。

●接触機会の削減

活動の打合せはグループリーダーに限る等、被災者との接点を持つメンバーをできるだけ限定する工夫をしましょう。

●手指消毒の徹底

活動に入る前、軍手や手袋を脱いだ時、休憩/昼食時、活動後、多くの人が触れる共用部分を触った後等は、こまめに石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行いましょう。

【多くの人が触れる共用部分の例】 テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブ、電気のスイッチ、電話、キーボード、タブレット、タッチパネル、蛇口、エレベーターのボタン、備品・器具 等

また、作業中は可能な限り手で首から上（目鼻口）に触ることは避けましょう。

●疲労・熱中症の対策

特に夏場にマスクを付け続けると熱中症のリスクがあがるので、こまめな休憩を取れる体制で活動しましょう。（二班交代で３０分おきに３０分休憩する、等）

マスクを外して休憩する際には、2m 以上の間合い確保を徹底しましょう。

●体調不良を感じたら

直ちに活動グループのリーダーに報告し、他者との間合いが確保できる換気の良い休憩場所に移動して、体調の回復を待ちましょう。

体調が回復しない場合は、ボランティアセンターなど募集団体と相談して、帰宅して受診する/被災地内の医療機関で受診する、等対応しましょう。

○休憩/昼食時

●間合いの確保と換気

休憩や昼食中は油断して人との距離が近づいたり、近距離でもマスクなしで会話をしてしまう事があります。

2m以上着座位置を離す、可能な限り向かい合って座る事を避ける、休憩/食事前に石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行う、食べる時はしゃべらない、しゃべる時はマスクを必ず付ける、室内の場合は換気を徹底する等、休憩・昼食前に必ず注意点を確認し合いましょう。

大皿からの取り分けやトング、食器、箸、グラス等の共有や回し飲みはやめましょう。休憩時に果物の差し入れ等が有る場合、特に気をつけましょう。

○宿泊

●個室利用の推奨

宿泊を伴う場合、可能な限り個室を利用しましょう。

どうしてもグループ同室で宿泊する場合は特に感染予防に留意し、換気を徹底してマスクを常時着用しましょう。

＜帰着後＞

○活動後の取り組み（帰宅後１週間を目安に）

●体調の記録

毎朝夕に体温測定し、体調を記録しておきましょう。

37.5℃以上の発熱、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、咳、味覚・臭覚の異常、腹痛、下痢、おう吐等が有る場合は外出を避け、かかりつけ医に電話連絡して適切な処置を受けましょう。

●感染判明時の対応

新型コロナウイルス陽性と判明した場合は、感染拡大防止のために保健所からの聞き取りに協力しましょう。活動中に感染が拡大している可能性があると判断された場合は、参加した団体/災害ボランティアセンターに連絡しましょう。

（別紙 12）地元住民（被災者）への呼びかけ

ボランティアと接する場面で感染を拡げないために

災害から立ち直るためには支え合いがとても大切です。気兼ねなくボランティアの力をうまく活かしてください。その際、新型コロナウイルスのリスクを下げるため、以下の留意点をご確認ください。

＜復旧・復興に向けた生活の中で＞

○日ごろからの取り組み

●体調の記録

毎朝夕に体温測定し、体調を記録しておきましょう。

37.5℃以上の発熱、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、咳、味覚・臭覚の異常、腹痛、下痢、吐き気などが有る場合は、外出せずにかかりつけ医や避難所の医療班に連絡し、適切な処置を受けましょう。

> **体調が優れない場合はボランティアが来る当日であってもキャンセルの連絡を入れてください。**
> 迷惑を掛けるからと体調不良を押してボランティアを受け入れたりイベントに参加することが、感染の拡大に繋がる可能性があります。

●飲食を伴う/大人数/長時間におよぶ飲食の自粛

飲酒を伴う複数人との会食や大人数/長時間の食事会は控えましょう。
（同居家族等を除く）

●３密・リスクのある場所の回避やマスクの徹底

３密が生じるリスクが有る場所への外出をできるだけ避け、どうしても必要がある場合は必ずマスクをしましょう。

●ワクチンの接種

新型コロナウイルスワクチンは、積極的に３回または４回接種しましょう。

加えて MR および破傷風ワクチン接種歴を確認しましょう。

MR ワクチンを２回接種していない場合は追加接種を検討しましょう。

破傷風ワクチンが未接種、あるいは接種から１０年以上経過している場合は、ケガしたときのリスクを下げるために、接種しましょう。

＜ボランティアを受け入れる/イベント等に参加する時＞

○作業現場/イベント会場での注意点

●間合いの確保とマスクの着用

感染リスクを下げるため、できるだけ他者とは距離を 2m 以上開けましょう。2m 以内にいる場合、会話をするときは必ずマスクを着用しましょう。

夏は熱中症予防との兼ね合いでマスクを外す必要も出てくる可能性があります。その場合は 2m 以上の間合いの確保を徹底しましょう。

マスクには不織布、布、ウレタンなどの種類がありますが、できる限り不織布マスクを準備してください。（飛沫の補足率が最も高いため）

フェイスシールド、マウスシールドは単独で使用しても飛沫拡散防止効果も飛沫吸入防止効果も非常に低いので、使う場合は不織布マスクと併用しましょう。

●室内の場合は換気の確認

作業場所/イベント会場が室内の場合換気されているか確認しましょう。換気が充分でない場所と感じる場合は改善しましょう。

窓がある場合は風の流れができるよう２方向の窓を常時開放しましょう。それが無理な場合でも 30 分に１回、５分間程度全開にしましょう。窓がなくドアが１つの部屋の場合、換気扇や扇風機、サーキュレーターを併用しましょう。

●手指消毒の徹底

作業に入る/イベントに参加する前、軍手や手袋を脱いだ時、休憩/昼食時、作業終了時、多くの人が触れる共用部分を触った後などはこまめに石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行いましょう。

【多くの人が触れる共用部分の例】 テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブ、電気のスイッチ、電話、キーボード、タブレット、タッチパネル、蛇口、エレベーターのボタン、活動に用いる備品・器具 等

また、参加中は可能な限り手で首から上（目鼻口）に触ることは避けましょう。

●接触機会の削減

作業の打合せはグループリーダーに限るなど、ボランティアとの接点をできるだけ限定する工夫をしましょう。

●疲労・熱中症の対策

特に夏場にマスクを付け続けると熱中症のリスクがあがるので、こまめな休憩を取りましょう。（ボランティアの方々も休みやすいように、みなさんが率先して休息を取ってください）

マスクを外して休憩する際には、2m 以上の間合い確保を徹底しましょう。

●体調不良を感じたら

直ちにボランティアグループのリーダーに報告し、他者との間合いが確保できる換気の良い休憩場所に移動して、体調の回復を待ちましょう。

体調が回復しない場合は、ボランティアリーダーと相談して、作業やイベント参加を切り上げる/医療機関で受診する、等対応しましょう。

〇休憩/昼食時

●間合いの確保と換気

休憩や昼食中は油断して人との距離が近づいたり、近距離でもマスクなしで会話をしてしまう事があります。

2m以上着座位置を離す、可能な限り向かい合って座る事を避ける、休憩/食事前に石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行う、食べる時はしゃべらない、しゃべる時はマスクを必ず付ける、室内の場合は換気を徹底する等、休憩・昼食前に必ず注意点を確認し合いましょう。

大皿からの取り分けやトング、食器、箸、グラス等の共有や回し飲みはやめましょう。休憩時に果物や飲み物の差し入れがする場合、特に気をつけましょう。

＜作業後/イベントから帰ってから＞

〇作業後

●体調の記録

毎朝夕に体温測定し、体調を記録しておきましょう。

37.5℃以上の発熱、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、咳、味覚・臭覚の異常、腹痛、下痢、吐き気などが有る場合は外出せずにかかりつけ医や避難所の医療班に連絡し、適切な処置を受けましょう。

●感染判明時の対応

もし新型コロナウイルス陽性と判明した場合は感染拡大防止のために保健所からの聞き取りに協力しましょう。もし作業中/イベント参加中に感染が拡大し

ていた可能性があると判断された場合は、ボランティアが所属していた団体/災害ボランティアセンターに連絡を入れましょう。

（別紙 13）団体むけ＜共通事項＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜共通事項＞

ボランティア活動を企画/運営するすべての団体は、被災者を支援するという目的のために、必ず感染症対策に配慮した取り組みが必要です。重要なことは、**被災者（被災地域の住民）が安心して受け入れできる事**です。独りよがりの対策にならない様、適切な情報公開とコミュニケーションでお互いに安心できる環境を作りましょう。

＜事前準備＞

○ **活動を企画する際**

- 被災者と接する活動を行う場合、原則として全員ワクチンを３回接種しましょう。接種できない方は被災者と接点を持たない活動に取り組みましょう
- スタッフ全員で感染対策の基本を確認し、ボランティア個人への呼びかけの内容を実践しましょう
- 自分たちの考える活動に潜むリスクがどのようなものか、どうやってリスクを下げるか確認しましょう
- 活動場所の医療受入体勢（ケガ・病気）と新型コロナウイルス受診・相談センターの連絡先を確認しておきましょう
- 「医学的アドバイス」「ボランティア受入方針」を入手し、自分たちの地域及び被災地の状況を確認し、安心して受け入れて貰えるか確認しましょう

被災地住民の声などを反映した結果、「医学的アドバイス」と「ボランティア受入方針」で、求める感染対策や募集範囲に違いがある場合があります。
その際には、より厳しめの対応を求めている資料を優先してください。

- 感染対策に必要な備品（予備のマスク、石けんやハンドソープ、アルコール手指消毒薬、体温計、環境消毒のための家庭用洗剤や布巾　等）を準備しましょう

○ **ボランティア募集/活動告知する際**

- ホームページやチラシ等には取り組んでいる感染対策を明示しましょう。また、当日であっても中止や延期がある事を明記しましょう
- 参加するボランティア個人への感染症対策の呼びかけを事前に伝え、参加前から体調管理に取り組むように促しましょう

＜活動当日＞

○ 活動/イベント開始前

- 室内や、屋外でも不特定の人が同じ場所を触る会場の場合、参加者が集まる前に環境消毒を行いましょう
- 受付時、参加する全員に体調の確認と検温を行いましょう
  （もし37.5℃以上の方、咳等明らかに体調が不良の方がいた場合は
  他者と2m以上の間合いが取れる換気の良い場所に自己隔離してもらい、
  参加を断って、帰宅して医療機関に受診するよう促しましょう）
- マスク所持を確認し、持っていない人がいた場合は予備を配りましょう
- ボランティア/支援した住民の連絡先が分かる名簿を作成しましょう
  （感染者がいた場合には保健所に提供する事を告知しておきましょう）

○ 活動中

- トラブルに備えて当日の責任者を決め、いつでも駆けつけられる範囲に待機しておきましょう
- 参加しているボランティアと常に連絡が取りあえるようにしておきましょう
  （ボランティアリーダーの連絡先を把握し、団体の緊急連絡先を周知する）
- グループで活動する場合、グループ毎に一人以上「感染予防アドバイス担当」を決めて、リスクが高まる場面に気づいたらその場で助言し合うと良いでしょう。（グループリーダー等他の役割と兼務でも可）
- 体調不良者が出た場合、熱中症などの可能性もあります。他者と間合いを確保できる換気の良い休憩場所で休んでもらい、様子を見ましょう。
  体調が回復しない場合は活動を切り上げてもらい、帰宅して受診する/被災地内の医療機関で受診する、等対応しましょう。

＜活動後＞

○ 感染発覚時と個人情報保護に配慮した名簿管理

- 活動日から最低2週間は参加者名簿を保持し、もしボランティアや参加した住民に感染者が出ていた場合は、保健所に協力して濃厚接触者を確認する際に提供しましょう
- 2週間以上経った名簿は個人情報保護に配慮して適切に廃棄しましょう
  （感染症対策以外の用途で提供を受けた個人情報はその用途に応じて適切に管理しましょう）

（別紙 14）団体むけ＜屋外作業（非接触）＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜屋外作業（非接触）＞

「屋外作業（非接触）」とは、屋外にある流出土砂やがれきの撤去、農地の復旧等、ボランティア同士やボランティアと住民の間合いが常に 2m 以上確保できる屋外での作業を指します。このような活動では作業中の感染リスクは高くありません。しかし、作業前後や休憩中に注意しましょう。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
屋外(非接触)	低	低	低	低	低

＜活動に入る前＞

○ 活動現場のリスクを確認する

- 作業に入る前にメンバー全員で作業場所の危険個所（足元・頭上・段差・突起物等）を確認しましょう。土砂崩れや倒木、倒壊家屋など危険性が高い場合、必要に応じて土木や建築の資格を有する方にアドバイスを受けましょう
- 安全対策に必要な装備を整え、装備がない場合は作業を中止しましょう（高所作業や重機、チェーンソー等を使う作業は適切な資格や講習を受講したメンバーが必ず現場にいるようにしましょう）
- 屋外でも間合いが取れなくなる場面が起こりやすい場所を想定して回避策を考えるか、その場で活動する人はマスクを着用するようにしましょう

＜活動中＞

○ 打合せをする際

- ボランティア同士や住民と作業内容について打合せをする際は必ずマスクをしましょう

○ 昼食/休憩時

- 昼食/休憩に入る時は石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒をしましょう
- 2m 以上の間合いを確保しましょう　　× 向かい合って座らないこと

- 屋内で食事/休憩をする場合は換気をしましょう
- 食事やおやつは個別配膳しましょう

  × 箸やトングを共用しないこと　　× 飲みものを回し飲みしないこと

○ **疲労・熱中症対策**

- マスクをしての作業は疲労が強くなることがあり、熱中症のリスクもあがります。定期的に休憩を取れる体制で活動しましょう。
  （2 班体制 30 分交替で活動を行う等）
- 風通し良く日陰で、充分に間合いがとれる休憩スペースを確保しましょう。

＜活動後＞

○ **帰路での３密回避**

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も３密回避を意識しましょう

（別紙 15）団体むけ＜屋内作業（非接触）＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜屋内作業（非接触）＞

「屋内作業（非接触）」とは、被災した家屋内での土砂撤去や家財搬出、清掃等、ボランティア同士やボランティアと住民の間合いが常に 2m 以上確保できる屋内での作業を指します。一般的に換気も充分されているため対策は屋外作業に準じますが、間合いが近づく場面が起こりやすいので原則マスクをして作業しましょう。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
屋内（非３密）	中	中	中	中	中

＜活動に入る前＞

○ 活動現場のリスクを確認する

- 作業に入る前にメンバー全員で作業場所の危険個所（足元・頭上・段差・突起物等）を確認しましょう。被害を受けた家屋など危険性が高い現場の場合、必要に応じて建築の資格を有する方にアドバイスを受けましょう
- 安全対策に必要な装備を整え、装備がない場合は作業を中止しましょう（壁や天井をはがす作業を行う際はアスベスト対策のため N95 マスクが必要となる場面があります）
- 搬出の通路上等間合いが取れなくなる場面が起こりやすいので、原則として全員がマスクを着用するようにしましょう
- 窓や扉は常時開放し、屋外同様の換気を確保しましょう。床下など密閉空間で作業する場合は扇風機や送風機などを利用して強制的に換気しましょう

＜活動中＞

○ 打合せをする際

- ボランティア同士や住民と作業内容について打合せをする際は必ずマスクをしましょう
- 打合せをするメンバーを指定して、住民と近距離で接触する人数を最小限に留めるようにしましょう

○ 昼食/休憩時

- 昼食/休憩に入る時は石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒をしましょう
- 2m 以上の間合いを確保しましょう　　× 向かい合って座らないこと
- 屋内で食事/休憩をする場合は換気をしましょう
- 食事やおやつは個別配膳しましょう
  × 箸やトングを共用しないこと　　× 飲みものを回し飲みしないこと

○ 疲労・熱中症対策

- マスクをしての作業は疲労が強くなることがあり、熱中症のリスクもあがります。定期的に休憩を取れる体制で活動しましょう。
  （2 班体制 30 分交替で活動を行う等）
- 風通し良く日陰で、充分に間合いがとれる休憩スペースを確保しましょう。

＜活動後＞

○ 帰路での３密回避

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も３密回避を意識しましょう

（別紙 16）団体むけ＜炊き出し/物資配布＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜炊き出し/物資配布＞

炊き出し/物資配布は被災したひと達の命や生活を支えるために大切な支援ですが、多くの住民が集まる可能性があるため、感染拡大のリスクが高まります。また、参加する住民に高齢者等ハイリスク者が多く含まれるため、感染対策はより厳重に行う必要があります。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
屋外(接触)	中	高	中	高	高

＜活動に入る前＞

○ **活動現場での感染経路を絶つ対策を事前に検討しておく**

- 配布/食事会場が３密にならないよう計画段階で検討しましょう
  - ・列を作る場所を工夫する　・列整理担当を決める　・時間差を作る
  - ・注意喚起の掲示物を用意する　・食事/休憩時の着座位置を決めておく
  - ・物資/食事の陳列方法を工夫する　・室内の場合は換気する　等
- 接触感染が起きないよう配付/配膳方法を検討しましょう
  - ・受付時に全員手指消毒/検温ができるように備品を準備しましょう
  - ・個別配膳できるよう準備しましょう
  - ・原則使い捨て食器を利用しましょう
  - （食器が足りない場合はラップで包んで使用し、ラップを使用毎に廃棄）
- 炊き出し衛生マニュアル（http://www.jshe.jp/project/takidashi.pdf）等を読んで、炊き出しにおける一般的な衛生管理方法を習熟しておきましょう

＜活動中＞

○ **食品・調理具・食器、配付物資の汚染を防ぐ**

- 食品や食器は地面/床から（目安は 30cm 以上）離して保管しましょう
- 積み下ろし作業する前に手指消毒及びマスクを付けて作業しましょう

○ 調理/配膳スタッフの衛生対策

- 調理/配膳はマスク、帽子または三角巾、清潔な衣服、使い捨て手袋等衛生に配慮した服装で、健康に問題のないスタッフで行いましょう

○ 来場者に手指消毒とマスク着用、検温を徹底し、連絡先を取得する

- 受付で手指消毒できるよう準備すると共に、マスクの着用を呼びかけて検温を行いましょう（マスクを忘れた方には予備を提供しましょう）
- 検温時に 37.5℃を越える方、体調不良の方が来場した場合は参加を断り、帰宅して医療機関で受診するよう伝えましょう
- クラスター対策のため氏名と連絡先（携帯電話番号等連絡を取る方法）を書いてもらいましょう（目的を伝えて協力を呼びかけましょう）
- 声かけは事前に録音したものを流す等工夫しましょう
  （音量が大きすぎると来場者の声も大きくなり逆効果なので気をつける）
- 会場が密にならない様、受付で人数の調整を行いましょう

○ 食事/休憩スペースの密を回避する

- 食事や休憩のためのスペースは着座位置を指定する等、間合いが取れるように工夫しておきましょう
  ・座席の間隔をあける　・同じ方向に向いて座る　・互い違いに座る　等
- マスクを外している間は話さないよう呼びかけましょう
  ・注意喚起の掲示物　・録音音声による呼びかけ　等
  （マスクをしていても長話をしていれば周りの人が不安になります。
  その場合は離れた場所に移動してもらいましょう）
- 音楽や呼びかけは音量に気をつけて来場者が大声にならない様にしましょう

○ 片づけ時の感染リスクに気をつける

- 食べ残しや使い捨て食器等のゴミを扱う際は必ず手袋・マスク・エプロンを付けて行い、処理後は手袋・マスク・エプロンを廃棄して手指消毒を徹底しましょう

＜活動後＞

○ 帰路での３密回避

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も３密回避を意識しましょう

（別紙 17）団体むけ＜訪問／声かけ＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜訪問／声かけ＞

災害ＶＣへ相談がある世帯だけでなく、相談がない世帯にも支援を要する場合が多くあります。遠くに新型コロナウイルス対策で分散避難が呼びかけられているため、支援の必要な方が見えにくくなっています。訪問や声かけにより潜在的ニーズを見つけるだけでなく、相談できる窓口があることを周知して支え合いの輪から漏れる被災者を無くすことが大変重要です。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
訪問/声かけ	高	低	中	高	高

＜活動に入る前＞

○ 健康状態を確認する

- 自分の健康状態を毎日確認しましょう。体調に不安がある場合は訪問／声かけ活動を中止または延期しましょう。
- 可能な場合は、訪問前に対象者の健康状態も確認しましょう。体調の不安を訴えた場合は必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。

（参考）新型コロナウイルス感染症の主な症状

・37.5 度以上の発熱　・息苦しさ　・強い倦怠感　・継続的な咳
・継続的なのどの痛み　・味覚/臭覚の異常　・下痢　など

※新型コロナウイルス感染症以外に、ノロウイルスなど他の感染症の疑いがある場合も活動を休みましょう

○ 訪問以外の連絡／声かけ方法も検討する

- 手紙や電話、SNS（LINE 等）等、訪問によらない方法も検討しましょう

○ 面会方法について確認しておく

- ドアやインターホン等の手指が触れる場所、面会する場所を確認しましょう

・相手との距離は確保できるか?　・換気されているか?

- 部屋への入室が必要ないなら避けましょう。玄関ドアや窓越し、縁側、屋外、

インターホン越し等の方法も検討しましょう

- 入室が必要な場合は、短時間（目標は 15 分以内＝濃厚接触にあたらない）で終えられるよう手順を事前に確認し、必要に応じて簡略化しましょう。

  ・事前に記入できる項目は記入する　・電話等で確認できる事はしておく　等

- 対象者には面会中にマスクの着用を求める等のルールをチラシ等で事前に周知するとともに、必要に応じて訪問時にも説明しましょう。

○ 準備物を確認する

- 活動の必携品

  ・身分証　・筆記具　・携帯電話　・チラシ等配付資料

- 感染予防対策品

  ・不織布マスク（予備も持つ）　・携帯用アルコール手指消毒液
  （またはアルコールウェットティッシュ）

  （以下は、必要に応じて）

  ・ハンドソープ　・ペーパータオル　・非接触式検温器　・手袋　・ゴミ袋

＜活動中＞

○ 面会前の準備

- 携帯用アルコール手指消毒液で手を洗い、マスクを必ず付けましょう
  （アルコールウェットティッシュを使う場合は隅々までゴシゴシこする）

- チラシ等の配付物やペンなど対象者に渡す／触るものは、手指消毒の後に準備し、必要以外のものは鞄にしまって出さないようにしましょう

- 対象者にも面会する前にマスク着用をお願いしましょう
  （マスクが困難な方の場合は咳エチケットのためのペーパータオル等を持っておいてもらう）

- 対象者の体調を確認し、違和感がある場合は面会を中止または延期して、インターホン越しの会話などで代替しましょう

○ 面会時の対応

- 換気の良いところ（玄関や窓越し、縁側、屋外等）で面会しましょう
- 屋内に入る場合、換気を確保しましょう
  （30分ごとに５分程度２方向の窓を開ける　１方向なら扇風機を併用する）
- 距離をとって面談しましょう（できるだけ 2m　最低 1m以上）
- 湯茶やお菓子などの接待は丁寧に辞退しましょう
- 継続的な訪問／見守りのため、また、万が一の連絡のために電話や SNS アカウント等を確認しておきましょう

○ 面会後

- あらためて手指消毒を行っておきましょう

＜活動後＞

○ 記録に残す

- 万が一の感染リスクに備え、1 日の行動（いつ/どこに行った/誰に会った）を記録しておきましょう

○ 共有する

- 訪問した対象者のうちに気になる方がいた場合、団体の責任者と速やかに報告し、必要に応じて行政や地域包括支援センターなどの支援機関や専門職に相談しましょう

（別紙 18）団体むけ＜サロン／相談会＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜サロン／相談会＞

サロン活動は、被災者の居場所を作ったり、定期的な外出の機会や人と会話する機会を増やして潜在化しがちな課題を把握するためにも大切な活動の 1 つです。よって、感染リスクは高い取組ではあるものの、地域の感染状況に注意を払いつつ、感染対策を行った上で、できる限り継続することが望まれます。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
サロン/相談会	高	高	高	高	高

＜活動に入る前＞

○ 被災地内の感染状況に細心の注意を払う

- 個人の感染対策をどれだけ努力しても感染リスクをゼロにする事はできません。被災者の安心を損なわないよう、最新の感染状況や地域の災害ボランティアセンターが出している「ボランティア受援方針」を参考にして、慎重に開催/中止の判断をしましょう。

○ 健康状態を確認する

- 自分の健康状態を毎日確認しましょう。
- 可能な場合は、参加者にも事前に健康状態をセルフチェックしてもらうよう伝えましょう。体調の不安を訴えた場合は必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。

（参考）新型コロナウイルス感染症の主な症状

・37.5 度以上の発熱　・息苦しさ　・強い倦怠感　・継続的な咳
・継続的なのどの痛み　・味覚/臭覚の異常

※新型コロナウイルス感染症以外に、ノロウイルスなど他の感染症の疑いがある場合も活動を休みましょう

・下痢　・日頃と異なる体調不良など

○ オンラインでの開催や併用も検討する

- 参加者も含めた完全なオンライン開催や、支援者の一部（例えば傾聴や各種相談などの担当者）をオンラインにする事が可能か、検討しましょう。

○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方が多く参加する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

○ 会場の確認と感染対策の事前準備

- 開催場所を事前に確認し、会場の感染予防対策ガイドラインがあれば確認するとともに、参加者が間合いを確保できるか、屋内の場合は換気が充分にできるかを確認しましょう。可能なら入口と出口を分けましょう。
- 事前に消毒しておくべき場所や物を確認しましょう。

  ・机　・イス　・ドアノブ　・手すり　・エレベーター　・トイレ

  ・手洗い場(蛇口)　・電灯のスイッチ　・マイク　等
- テレビのリモコンや本、遊具等、サロン/相談会では使わない物は事前に撤去しておく事でリスクを下げる事ができます。

○ 準備物を確認する

- 活動の必携品

  ・受付名簿　・筆記具　・チラシ等配付資料　・サロンで使用する物品
- 感染予防対策品

  ・不織布マスク　・アルコール手指消毒液　・アルコールウェットティッシュ

  ・非接触型検温器　・ゴミ袋　・ゴミ箱(ふた付)　・手袋・ペーパータオル

  ・家庭用洗剤

＜活動中＞

○ 会場の準備

- 参加者が触る場所は事前に消毒しましょう。清掃時はマスクと手袋をして、

終わったら破棄しましょう。

（参考資料）経済産業省＞ご家庭にある洗剤を使って身近な物の消毒をしましょう」

https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013-3.pdf

- 座席の間隔は 2m 以上（最低でも１m）あけて座るよう準備しましょう。

  ・グループの場合、対面にならない様に席を設置しましょう。

- 受付の前にアルコール手指消毒と検温できる場所を設置しましょう。
- 受付は密集しやすいので広いスペースがとれる場所に設置しましょう。
- 換気を確保しましょう。（常時換気がベスト。少なくとも 30 分毎に５分換気）
- 動線を確保して不用意な密が生じないようにしましょう。
- 配付物などは事前に席に置いておくことで接触機会を減らす事ができます。
- 感染予防対策を促すチラシなどを会場内に掲示しましょう。
- 特に夏期の場合、マスクにより熱中症のリスクが高くなるので、マスクを外して休憩できるような換気の良い休憩場所を確保しましょう。

○ プログラムの工夫

- サロン/相談会のプログラムはできるだけ一人でできるものにしましょう。
- 道具を共有するプログラムはできるだけ避けましょう。マイクを回す場合は都度アルコールウェットティッシュなどで拭き掃除をしましょう。
- カラオケ等大声の発声を伴うものや、息切れする様な運動は避けましょう。
- できるだけ席の移動は避けましょう。
- 飲食は避けましょう。どうしても飲食を伴う場合は個包装された物を使い、食べる際におしゃべりしない様に工夫をしましょう。（映画鑑賞中に配る 等）
- 会話をする場合は席の距離を 2m（最低でも 1m）離せるよう工夫しましょう。
- 受付時や終了時、休憩時、室内外の移動など、参加者の移動が伴うときに密になりやすいので順番に移動を促すなど工夫しましょう。
- できるだけ事前申込制にしましょう。参加人数が多い場合は時間を分けるなど工夫しましょう。当日受付の場合は、会場の参加人数に応じて入場を調整で

きるよう、待機場所や入場前の案内なども検討しましょう。

○ 受付での対応

- 非接触式検温器で検温すると共に、体調の異変がないか確認しましょう。
  発熱が認められる場合、体調に異常を訴える場合は参加を見合わせ、必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。
- マスクの着用をお願いし、無い方は配付しましょう。
  ※乳幼児や自閉症の方等、何らかの理由でマスクを付ける事ができない方もいます。事情を丁寧に伺った上で、事業の趣旨に沿って対応しましょう。
  ・別室で対応する　・オンラインで対応する　・そのまま参加してもらう　等
  （WHO では「5 歳以下のマスクは不要」、厚生労働省では「2 歳未満のマスク着用を推奨しない」としています）
- 金銭の受け渡しが必要な場合、直接の手渡しは避け、トレイなどを利用しましょう。受付スタッフがお金に触れた場合はアルコール手指消毒をしてから次の方の対応をしましょう。
- 名簿はチェック式にするなどスタッフ側で対応できるように工夫しましょう。
  参加者に記入してもらう場合は、書く前のアルコール手指消毒、書いた後のアルコール手指消毒を促しましょう。

＜活動後＞

○ 会場の消毒・清掃

- 使い終わった会場は消毒、清掃してから返却しましょう。
- 製造時はマスクと手袋をして、終わったら破棄しましょう。
- 活動で出たごみをいれたゴミ袋は口を閉じて持ち帰り、地元の分別ルールに沿って処分しましょう。

（別紙 19）団体むけ＜子どもの居場所／学習支援＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜子どもの居場所／学習支援＞

新型コロナウイルス感染症影響下での被災という非常事態においても、できる限り子どもたちの日課や習慣を保ち、安心して遊んだり、学んだり、休んだり、家族やお友達と過ごせる機会や場所をつくることはとても大切なことです。そして、ストレスを抱えた子どものケアをする親御さんや養育者を支えることも大切です。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
子どもの居場所/学習支援	高	高	中	低	高

＜子どもの新型コロナウイルス感染リスクと対策の概要＞

○ 感染のリスク

- オミクロン株の登場以降、子どもでの感染事例も増えています。多くは軽症ですが特に基礎疾患のある子どもや乳児では重症化することがあります。
- 子ども同士の感染より家庭内やでの大人からの感染が多いと言わているので大人からの感染リスク低減が重要です。子ども自身に加えてご両親や同居家族、登園/通学している保育園や幼稚園、学校の感染状況も確認しておくことでリスクを正確に把握できます。

○ 感染予防対策について

- WHO では「5 歳以下のマスクは不要」、厚生労働省では「2 歳未満のマスク着用を推奨しない」としています。
- マスク着用ができる子は着用してもらい、無理な子は着用を強制する必要はありません。
- 子どもができる範囲内の感染予防策をとることが重要です。幼児等の場合は教育の一環として、「手が汚れたら手を洗おうね」という程度の指導でもよ

いでしょう。

＜活動に入る前＞

○ 被災地内の感染状況に細心の注意を払う

- 個人の感染対策をどれだけ努力しても感染リスクをゼロにする事はできません。被災者の安心を損なわないよう、最新の感染状況や地域の災害ボランティアセンターが出している「ボランティア受援方針」を参考にして、慎重に開催/中止の判断をしましょう。

○ 健康状態を確認する

- 自分の健康状態を毎日確認しましょう。
- 可能な場合は、参加者にも事前に健康状態をセルフチェックしてもらうよう伝えましょう。体調の不安を訴えた場合は必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。

（参考）新型コロナウイルス感染症の主な症状

・37.5 度以上の発熱　・息苦しさ　・強い倦怠感　・継続的な咳
・継続的なのどの痛み　・味覚/臭覚の異常　・下痢　など

※新型コロナウイルス感染症以外に、ノロウイルスなど他の感染症の疑いがある場合も活動を休みましょう
・下痢　・日頃と異なる体調不良など

○ オンラインでの開催や併用も検討する

- 参加者も含めた完全なオンライン開催や、支援者の一部（講師など）をオンラインにする事が可能か、検討しましょう。

○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方が多く参加する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

○ 会場の確認と感染対策の事前準備

- 開催場所を事前に確認し、会場の感染予防対策ガイドラインがあれば確認するとともに、参加者が間合いを確保できるか、屋内の場合は換気が充分にできるかを確認しましょう。可能なら入口と出口を分けましょう。
- 事前に消毒しておくべき場所や物を確認しましょう。

  ・机　・イス　・ドアノブ　・手すり　・エレベーター　・トイレ

  ・手洗い場(蛇口)　・電灯のスイッチ　・マイク　等
- テレビのリモコンや会場に常備の備品等のうち、子どもの居場所や学習会場では使わない物は事前に撤去しておく事でリスクを下げる事ができます。

○ 準備物を確認する

- 活動の必携品

  ・受付名簿　・筆記具　・チラシ等配付資料　・遊具や本など使用する物品
- 感染予防対策品

  ・不織布マスク　・アルコール手指消毒液　・アルコールウェットティッシュ

  ・非接触型検温器　・ゴミ袋　・ゴミ箱(ふた付)　・手袋・ペーパータオル

  ・家庭用洗剤

＜活動中＞

○ 会場の準備

- 参加者が触る場所は事前に消毒しましょう。清掃時はマスクと手袋をして、終わったら破棄しましょう。

（参考資料）経済産業省＞ご家庭にある洗剤を使って身近な物の消毒をしましょう」 https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013-3.pdf

- 座席の間隔は 2m 以上（最低でも１m）あけて座るよう準備しましょう。

  ・グループの場合、対面にならない様に席を設置しましょう。
- 受付の前にアルコール手指消毒と検温できる場所を設置しましょう。
- 受付は密集しやすいので広いスペースがとれる場所に設置しましょう。

- 換気を確保しましょう。（常時換気がベスト。少なくとも30分毎に５分換気）
- 動線を確保して不用意な密が生じないようにしましょう。
- 配付物などは事前に席に置いておくことで接触機会を減らす事ができます。
- 感染予防対策を促すチラシなどを会場内に掲示しましょう。
- 特に夏期の場合、マスクにより熱中症のリスクが高くなるので、マスクを外して休憩できるような換気の良い休憩場所を確保しましょう。

○ プログラムの工夫

- 紙芝居や読み聞かせなど、できるだけ子ども達が大声を出さずお互いの接触が少ない過ごし方を工夫しましょう。
- おもちゃや遊具の共用はできるだけ避け、子どもが手放した頃合いを見計らって、できるだけ頻回アルコールウェットティッシュで拭きとりましょう。
- 鼻水やよだれなどを拭いたティッシュ等はビニール袋に入れて破棄しましょう。ゴミ箱はふた付を用意しましょう。
- 飲食は避けましょう。どうしても飲食を伴う場合は個包装された物を使い、食べる際におしゃべりしない様に工夫をしましょう。（映画鑑賞中に配る 等）
- 個別にペットボトル飲料を用意したり専用の紙コップを用意し、こまめに水分を補給してもらいましょう。
- 保護者同士が会話をする場合は席の距離を 2m（最低でも 1m）離せるよう工夫しましょう。
- 受付時や終了時、休憩時、室内外の移動など、参加者の移動が伴うときに密になりやすいので順番に移動を促すなど工夫しましょう。
- できるだけ事前申込制にしましょう。参加人数が多い場合は時間を分けるなど工夫しましょう。当日受付の場合は、会場の参加人数に応じて入場を調整できるよう、待機場所や入場前の案内なども検討しましょう。
- 安全が確保できる屋外が準備できるなら、積極的に活用しましょう。
- 特に屋外を使う場合は、安全を見守るスタッフは適切に配置しましょう。

- 筆記具等はできるだけ持参してもらい、無い人については持ち帰ってもらえる様に予備を準備しましょう。
- 学習指導等で会話する際は大人は必ずマスクを付けましょう。

○ 受付での対応

- 非接触式検温器で検温すると共に、体調の異変がないか確認しましょう。
  発熱が認められる場合、体調に異常を訴える場合は参加を見合わせ、必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。
- マスクの着用をお願いし、無い方は配付しましょう。
  ※保護者でも、何らかの理由でマスクを付ける事ができない方もいます。事情を丁寧に伺った上で、事業の趣旨に沿って対応しましょう。
  ・別室で対応する　・咳エチケット用のハンカチなどを用意してもらう　等
  （子どもは着用可能な人のみ着用してもらいましょう）
- 金銭の受け渡しが必要な場合、直接の手渡しは避け、トレイなどを利用しましょう。受付スタッフがお金に触れた場合はアルコール手指消毒をしてから次の方の対応をしましょう。
- 名簿はチェック式にするなどスタッフ側で対応できるように工夫しましょう。
  参加者に記入してもらう場合は、書く前のアルコール手指消毒、書いた後のアルコール手指消毒を促しましょう。

＜活動後＞

○ 会場の消毒・清掃

- 使い終わった会場は消毒、清掃してから返却しましょう。
- 製造時はマスクと手袋をして、終わったら破棄しましょう。
- 活動で出たごみをいれたゴミ袋は口を閉じて持ち帰り、地元の分別ルールに沿って処分しましょう。

（別紙 20）団体むけ＜避難所運営支援／被災生活支援＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜避難所運営支援／被災生活支援＞

コロナ禍により分散避難が求められることもあり、避難所や分散避難した被災者の生活支援は大きな課題になっており、NPO・ボランティア団体にも支援が求められる機会が増えている。被災者の生活の場そのものへの関与が必要な活動のため、感染症の持ち込み、拡大を最も警戒しなければなりません。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
避難所運営支援/被災生活支援	高	高	中	高	高

＜事前準備＞

○ 参加するメンバーの限定と事前隔離

- 感染リスクを下げるため、参加するメンバーはできるだけ限定し、長期間活動できる人を選定しましょう
- 2 週間前からを目安に体調を記録して、少しでも体調に不安がある際には参加を見合わせましょう
- 2 週間前からを目安に可能な限り自己隔離し、3 密ができる場所や不特定の方が出入りする飲食店などの利用を避けましょう

○ 感染対策の基礎・避難所運営マニュアル等の事前学習

- 感染対策の基礎を確認すると共に、支援に入る市町が作成している避難所運営マニュアルを事前に確認しておきましょう
- 新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック（http://jvoad.jp/guideline/）等で必要な対策を身につけておきましょう

○ 交通手段及び宿泊について

- 現地への移動、現地内での移動はできる限り 3 密を避けるため、自家用車やレンタカーを活用する等しましょう
- 宿泊は原則個室を確保し、どうしても相部屋になる場合は換気を徹底してマスクを着用するようにしましょう

○ 感染予防備品の確保

- マスク、携帯型のアルコール消毒薬、体温計など感染予防、体調管理に必要な備品は、活動中でも使いやすいものをすべて持参する準備をしましょう

○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方と多く接する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

＜活動中＞

○ 飛沫対策（間合いの確保、マスクの着用、換気）の徹底

- 避難所や生活支援の場ではどうしても会話をする場面が多くなります
  - ✧ お互いにできるだけ 2m の間合いをとれるよう声をかけ合いましょう
  - ✧ 人の多い部屋に居る場合や会話する際は必ずマスクを付けましょう
  - ✧ 室内で作業する場合は必ず換気しましょう（可能なら常時換気）

○ 行動範囲を限定して、不特定多数の人との接点を避ける

- 活動中は行動する場所をできるだけ制限し、不特定多数の方との接点となる場所への外出を避けましょう

○ 食事や休憩、喫煙、場所の移動時などは感染リスクが高まるので注意

- 食事や休憩に入る際、終わる際、移動する前、到着後など、場面が変わる時には流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行いましょう
- 食事や休憩時、喫煙時はマスクをしていない状態で人が集まりやすくなるので、特に注意しましょう
- 打合せに出かける際、帰る際など、場面が変わる所は予期しない状況が生まれやすいので注意しましょう

＜活動後＞

○ 帰路での３密回避

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も３密回避を意識しましょう

（別紙 21）団体むけ＜ボランティア活動運営支援＞

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜ボランティア活動運営支援＞

災害時のボランティア活動を被災者にとってより良いものにするためには、災害 VC の運営支援や協働プラットフォーム（情報共有会議）の開催支援など、自主的なボランティア活動を、支援者同士、被災地の行政や地元住民と繋ぐ取り組みが大変重要です。また、一つひとつの取り組みを繋いで同じ情報を共有することは感染症対策を適切に実施する上でも重要な意味を持ちます。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
災害 VC アドバイザー/運営支援	低	低	高	低	中

＜事前準備＞

○ 参加するメンバーの限定と事前隔離

- 感染リスクを下げるため、参加するメンバーはできるだけ限定し、長期間活動できる人を選定しましょう
- 1 週間前からを目安に体調を記録して、少しでも体調に不安がある際には参加を見合わせましょう
- 1 週間前からを目安に可能な限り自己隔離し、3 密ができる場所や不特定の方が出入りする飲食店などの利用を避けましょう

○ 感染対策の基礎・災害 VC 設置マニュアル等の事前学習

- 感染対策の基礎を確認すると共に、支援に入る市町社協等が作成している災害 VC 設置運営マニュアルを事前に確認しておきましょう

○ 交通手段及び宿泊について

- 現地への移動、現地内での移動はできる限り 3 密を避けるため、自家用車やレンタカーを活用する等しましょう
- 宿泊は原則個室を確保し、どうしても相部屋になる場合は換気を徹底してマスクを着用するようにしましょう

○ 感染予防備品の確保

- マスク、携帯型のアルコール消毒薬、体温計など感染予防、体調管理に必要な

備品は、活動中でも使いやすいものをすべて持参する準備をしましょう

○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方と多く接する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

＜活動中＞

○ 飛沫対策（間合いの確保、マスクの着用、換気）の徹底

- 運営支援の場ではどうしても会話をする場面が多くなります
  - ✧ お互いにできるだけ 2m の間合いをとれるよう声をかけ合いましょう
  - ✧ 人の多い部屋に居る場合や会話する際は必ずマスクを付けましょう
  - ✧ 室内で作業する場合は必ず換気しましょう（常時換気がベスト。少なくとも 30 分毎に 5 分換気）

○ 行動範囲を限定して、不特定多数の人との接点を避ける

- 活動中は行動する場所をできるだけ制限し、不特定多数の方との接点となる場所への外出を避けましょう

○ 食事や休憩、喫煙、場所の移動時などは感染リスクが高まるので注意

- 食事や休憩に入る際、終わる際、移動する前、到着後など、場面が変わる時には流水手洗いまたはアルコール手指消毒を行いましょう
- 食事や休憩時、喫煙時はマスクをしていない状態で人が集まりやすくなるので、特に注意しましょう
- 打合せに出かける際、帰る際など、場面が変わる所は予期しない状況が生まれやすいので注意しましょう

＜活動後＞

○ 帰路での３密回避

- 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
- 夕食時/入浴施設等を利用する際も３密回避を意識しましょう

別紙 22

緊急連絡先提供のお願い

〇〇市災害ボランティアセンター

災害ボランティア活動へご参加ありがとうございます。

〇〇市災害ボランティアセンターでは、被災者にもボランティアにも新型コロナウイルス感染を拡げないことが一番のボランティアである、という考えで感染拡大の予防に取り組んでいます。そして、感染の可能性がある方一人ひとりの自覚ある行動が、地域の感染拡大リスクを軽減することに貢献します。

今回、みなさんの参加したボランティア活動に関わった方に体調の優れない方がいらっしゃいました。

その方がもし新型コロナウイルス検査陽性であった場合、速やかに濃厚接触の可能性があるみなさんに情報をお伝えして、感染拡大リスクを軽減する行動に繋げていただく事が大切だと〇〇市災害ボランティアセンターでは考えています。

そこで、みなさんの緊急連絡先の提供をお願いします。

＜個人情報の取扱について＞

- いただいた情報は〇〇市社会福祉協議会の定める個人情報取扱方針に従い適切に管理します。
- いただいた情報は濃厚接触の可能性があった場合にのみ使用し、他の目的には使用しません。
- いただいた情報は、一定期間（情報取得から二週間。医学的知見に基づき期間は変更される事があります）を過ぎた段階で適切に処分いたします。

＜万が一接触者が新型コロナウイルス検査陽性であった場合＞

- 〇〇市災害ボランティアセンターより連絡させて頂く場合があります。
  連絡があった場合は以下についてご協力をお願いします。
  - ・感染拡大予防対策を徹底した生活の実践
    （例　マスクの常時着用・可能な範囲での外出機会/他者との接触機会の削減）
  - ・活動した日を０日目として、７日間の自己健康観察の実践
    （朝夕の検温、日々の体調記録、主な行動歴・面会歴の記録）

  ※体調に異変があった場合は、かかりつけ医への相談をお願いします
- 保健所の求めがあった場合にはいただいた情報を提供する場合があります。
  その結果、保健所からみなさんに連絡がある場合があります。
  - ・保健所からの指示に従って感染拡大防止にご協力ください。

※緊急連絡のために、知らない番号からの通知が入る可能性があります。

同　意　書

私は、新型コロナウイルス感染拡大を抑止する目的のために緊急連絡先の情報を〇〇市災害ボランティアセンターに提供する事に同意します。

日　　付
氏　　名
緊急連絡先

- いただいた情報は〇〇市社会福祉協議会の定める個人情報取扱方針に従い適切に管理します。
- いただいた情報は濃厚接触の可能性があった場合にのみ使用し、他の目的には使用しません。
- いただいた情報（本同意書の切り取り線より上部）は、一定期間（情報取得から二週間。医学的知見に基づき期間は変更される事があります）を過ぎた段階で適切に処分いたします。

--------切り取り線--------

以下、〇〇市災害ボランティアセンター管理情報

受領日		管理 no	
接触概要			
対応履歴			
破棄予定日		破棄完了日	

※個人情報を除いた切り取り線以下の〇〇市災害ボランティアセンター管理情報は活動記録のために保存します。

別紙 23

時系列に沿ってガイドラインが推奨する取組

□みえ災害ボランティア支援センター（MVSC）

【災害発生時～48 時間（水害時）　～72 時間（地震）時】

○「医学的アドバイス」の作成（本紙 p8-12、別紙 p1-6）

【1 週間毎～必要に応じて】

○「医学的アドバイス」の更新（本紙 p8-12、別紙 p1-6）

□市町災害ボランティアセンター（災害 VC）

【設置から 72 時間以内（水害時）　体制構築から 72 時間以内（地震時）】

○「ボランティアミッション」の検討（本紙 p18-24、別紙 p14-20）

○「ボランティア受援方針」の決定（本紙 p25-29、別紙 p21-24）

○活動シーンごとの具体的対策（本紙 p30-37）

○事前準備（別紙ｐ33）

【活動当日】

○活動シーンごとの具体的対策（本紙 p30-35、別紙 p33-56）

○活動当日（別紙 p34）

○感染者/濃厚接触者が出た場合（本紙 p35-37、別紙 p57-58）

【活動後】

○活動シーンごとの具体的対策（別紙 p33-56）

○活動後（別紙 p34）

○感染者/濃厚接触者が出た場合（本紙 p35-37、別紙 p57-58）

【1 週間毎～必要に応じて】

○「ボランティア受援方針」の更新（本紙 p27、別紙 p21-24）

【以後支援活動フェイズの移行に合わせて】

○「ボランティアミッション」の更新（本紙 p21-22、別紙 p14-20）

○「ボランティア受援方針」の更新（本紙 p27、別紙 p21-24）

□市町

【災害発生後、できるだけすみやかに】

○「地元の声」の収集（本紙 p13-17、別紙 p7-13）

【概ね 1 週間毎～大きな状況変化があった場合】

○「地元の声」の更新（本紙 p16、別紙 p7-13）

□NPO・ボランティア団体

【災害発生後】

〇活動シーンごとの具体的対策（本紙 p30-35、別紙 p33-56）

〇事前準備（別紙ｐ31）

【活動当日】

〇活動シーンごとの具体的対策（本紙 p30-35、別紙 p33-56）

〇活動当日（別紙 p34）

〇感染者/濃厚接触者が出た場合（本紙 p35-37、別紙 p57-58）

【活動後】

〇活動シーンごとの具体的対策（別紙 p33-56）

〇活動後（別紙 p34）

〇感染者/濃厚接触者が出た場合（本紙 p35-37、別紙 p57-58）

□ボランティア

【出発前】

〇日頃からの取り組み（参加する 1 週間前からを目安に）（別紙 p25-26）

【活動当日】

〇活動シーンごとの具体的対策（本紙 p30-35、別紙 p33-56）

〇活動中（別紙 p26-28）

【帰着後】

〇活動シーンごとの具体的対策（別紙 p33-56）

〇帰着後（別紙 p28）

□地元住民

【復旧・復興に向けた生活の中で】

〇日頃からの取り組み（別紙 p29-30）

【活動/参加当日】

〇ボランティアを受け入れる/イベント等に参加する時（別紙 p30-31）

【活動後】

〇作業後/イベントから帰ってから（別紙 p31-32）